

＜ 解 説 ＞

○ 昨年度の調査研究の結果では、「あなたは、研究資料をどう収集し、どう活用していますか」という問いに対して、小・中・高校の回答者の過半数が「係からの提供資料をつづり、必要なときに活用」と回答しており、自ら主体的に「実践反省や研修記録等を残し、指導や評価に生かそうと努力」する態度は極めて少なかった。その要因としては、資料の収集・活用についての意識の低さや具体的な収集、活用方法等の理解不足などがあると考えられる。

○ そこで、このような現状実態を改善するために、ア. 校内研修を推進する過程で、各段階においては、何のために、どんな資料を収集する必要があるのか、イ. 収集した資料は活用するために、どのような観点からどんな事項（要素）を取り出し、目的に応じた検討資料を作成して、どう活用していったらよいのか、の基本的な視点から「研究主題到達までの資料の収集・活用のあり方・すすめ方」を具体化してみた。

○ 試案では、ア. 校内研修推進の各段階ごとに収集必要と考えられる資料名を具体的にあげ、各学校の実態や研究内容に応じて取捨選択できるようにした。イ. 校内研修に役立てる資料という観点から、いわゆる文献、記録、評価、各種調査データなど、特に分類せず一括して資料としてあげた。ウ. 資料の活用法については各校により若干の相違はあろうが、活用の手順、観点、場などを具体例として示した。エ. 資料の整理、管理は評価段階の後に入れたが、本来は各段階ごとに実施することが望ましい。

○ 校内研修の効果を高め、充実した研修を維持するためには資料は不可欠のものであり、必要資料の収集・活用の意味は極めて重要であると考ええる。この試案は、各試案と密接な関連を持っているので実践にあたっては併用して活用されることを望む。

⑧ 協働意欲を高めるリーダーの援助指導のあり方、すすめ方

課 題	改善の方向	改善の具体策	配 慮 事 項
<p>—問題点— 校内研修推進におけるリーダーのあり方や具体的な援助指導の内容・方法が不明確なため協働意欲が十分に高まらない。</p>	<p>□組織集団及び成員各個人の協働意欲の<b>実態把握</b>をするとともに、リーダーとしてのかかわるべき方向・態度を確立する。</p>	<p>□校内研修に対する協働意欲の<b>実態</b>を調査し現状における問題点や全体傾向を理解する。</p>	<p>○まず現状理解から出発したい。リーダーは自校組織集団のモラル（協働意欲）の全体傾向や問題点を把握しておく必要がある。そのために実態調査の設問づくりは、設問作成委員会等を設置し、十分協議のうえ現状が浮きぼりされるよう考慮して作成したい。</p> <p>例えば、「自己啓発」の観点からみれば、次のような方向が考えられる。（例示）</p> <p>ア、研修会においては、各個人が自由な発言・発表ができるふんい気であるかどうか（その度合いは）</p> <p>イ、職場（職員室等）に研究的な話題が満ちているかどうか（その度合いは）</p> <p>ウ、チームワークがとれ、研修が円滑に進められているかどうか（その度合いは）</p> <p>エ、組織成員間にねたみや反目・対立関係はないかどうか（その度合いは）</p> <p>オ、研修推進上、相談できる人がいるかどうか（その度合いは）</p>